



ようこそ、公共建築設備の世界へ

地球
周辺
執務

“環境”
にやさしい
と調和した
が快適な

国の
建物を

つくる、
作る、
造る、創る

快適な空間

キャリアパス・研修制度

1年目から上司と一緒に担当案件を持ち、**実際の事業を通して仕事の流れを学んでいきます。**
また、整備局全体の研修や、営繕部の研修・勉強会に参加し、基礎的な知識を習得します。

キャリアパスの例

入省	7年目	18年目
係員	係長級	官・課長補佐級
【1年目】 新規採用職員研修 整備局職員としての 基礎的な知識を習得。	【3年目】 災害対応(初級)研修 被災地方公共団体への技術支援に関する 研修。TEC-FORCE隊員に任命。	【5年目】 建築実務(中堅)研修 全国営繕部職員を対象とする研修で、営繕 業務全般の専門的な知識を習得。
新規採用職員 (OFF-JT)研修 約2ヶ月の職場経験を踏まえ、 基礎知識の習得や復習を実施。	初級課程営繕科研修 全国の営繕部新採用員が集まり、 営繕の施策や設計等の基礎を習得。	

営繕部の組織・勤務先

国土交通省

大臣官房官庁営繕部

近畿地方整備局

営繕部

計画課
新規事業の企画・立案や予算管理

調整課
長期構想の立案や環境対策、保全企画

整備課
施設の設計や設計基準の作成

技術・評価課
工事の発注や完了検査の実施

保全指導・監督室
工事の監督や保全実地指導
(大阪府(一部を除く)・和歌山県・兵庫県を管轄)

京都営繕事務所
工事の監督や保全実地指導
(京都府・滋賀県・福井県・奈良県・大阪府(一部)を管轄)

京都営繕事務所

出町柳駅
神宮丸太町駅

大阪メトロ谷町線

淀屋橋駅

天満橋駅

谷町四丁目駅

京阪本線

営繕部
(計画課、調整課、整備課、
技術・評価課、保全指導・監督室)

建築～電気～



照明計画

心地よい照明空間を設計し、
業務がはかどる空間をつくる

停電対策

災害による停電が起こった時に、
建物に与える電力を作る



これらが「電気」の仕事です



中央監視

建築設備を監視し、
利用者が安心する建物を造る

カーボンニュートラル

未来の地球環境のために、
再生可能エネルギーを創る



つくる
作る
造る、創る

快適な空間

建築～設備～

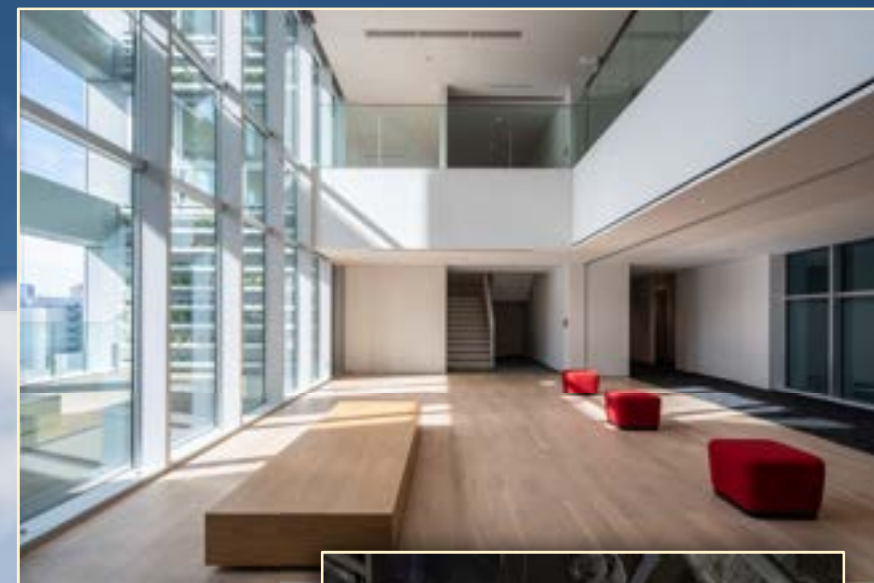
使いやすい建物をつくる

建物のバリアフリー化のため
エレベーターや多機能トイレ
を整備



快適な環境をつくる

利用者にとって快適な空調空
間設計



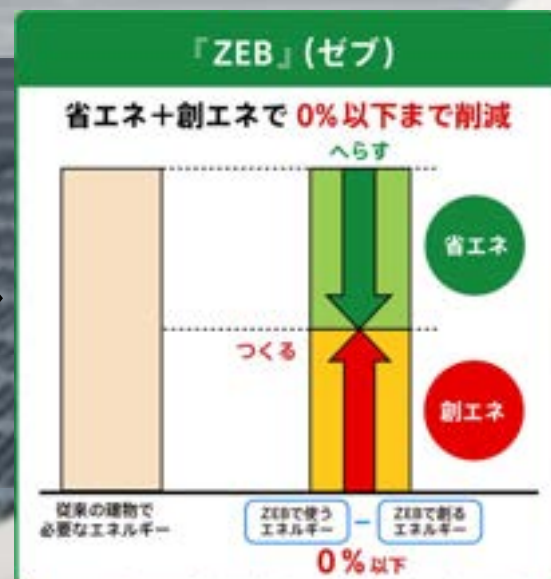
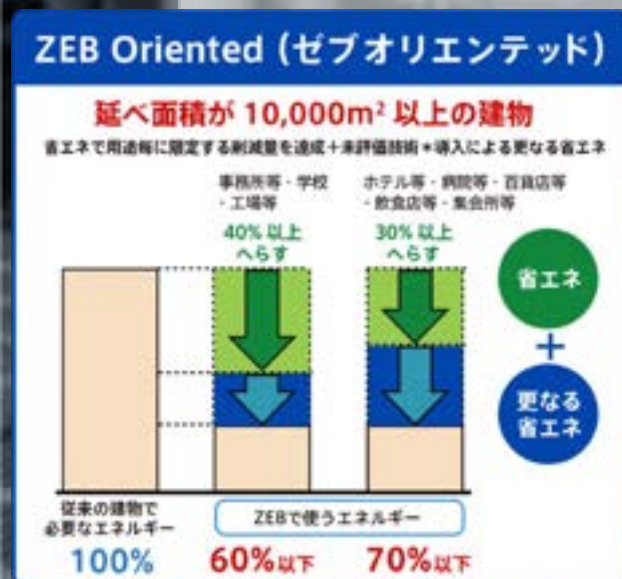
これらが設備の仕事です！

地球環境に優しい建物をつくる

最新の省エネルギー技術を取り込んだ設計
ZEBを目指した整備
雨水再利用で水資源の有効活用

災害に強い建物をつくる

利用者や建物を守るための防
災設備の整備



つくる、
作る、
造る、創る

快適な空間

建築設備職員の役割

建物をつくることは建築だけの仕事ではありません。
「明るさ」「電源」「建物の情報管理」「空気」「水」をつくる建築設備も
必要不可欠な要素となります。
建築のデザイン性と建築設備の快適性が調和した建物をつくることが
我々、近畿地方整備局営繕部建築設備職員の役割です。
建物の企画、設計、積算、完成まで一貫して営繕部で行っています。

企画

発注条件（市街地、海近辺、建物用途）や施設利用者の「声」を整理し、
建築設備の知識を用いて最適なプランをつくり、設計や施工のための
費用を算出します。

設計・積算

現地調査を行い、省エネルギー性、経済性、利便性を考慮した建築設備を
提案します。その後、設計の基準を基に機器の能力や台数を計算し、建築設備の
図面をつくります。
作成した図面から工事にかかる費用を算出する積算作業を行います。

施工監理

工事の受注者と共に建物をつくります。設計図面通りに施工されているか、
基準を満たす品質が確保されているか現場で監理します。

営繕部の取り組み

ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）

省エネによって「使うエネルギー」をへらし、
創エネによって「使うエネルギー」をつくることで、エネルギー消費“ゼロ”をつくる。
新築を予定している建物は、すべてZEBを目指す。

カーボンニュートラル

太陽を利用した建物をつくる。
雨水を利用した建物をつくる。
木材を利用した建物をつくる。

建設DX

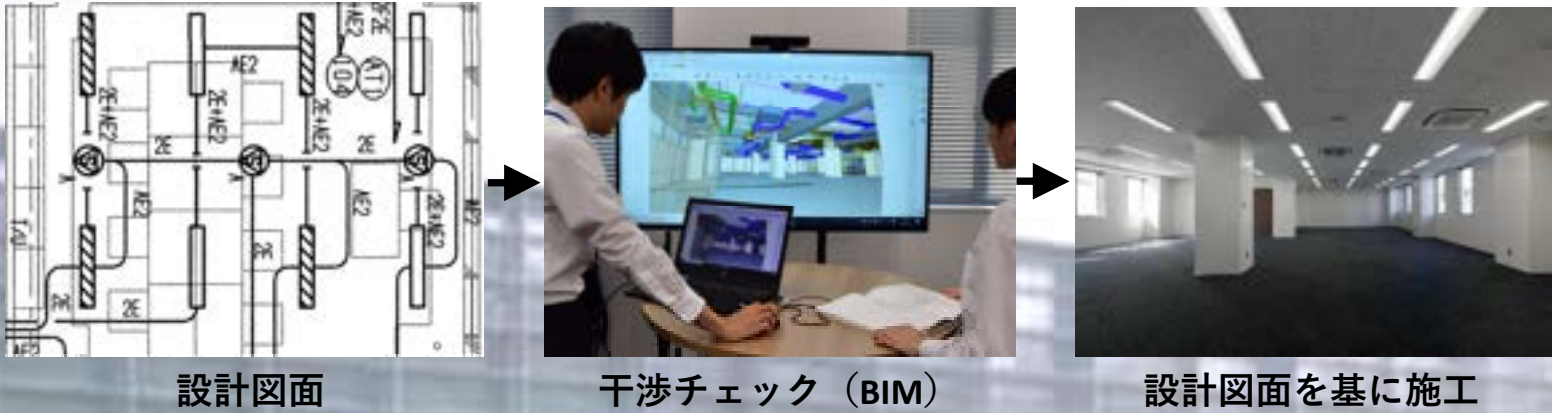
テレワークやWEB会議を使い、効率的に作業を実施する。
BIMを使い建築、建築設備の図面を3次元化することにより
梁と機器の干渉の確認・建物イメージをつくる。
AI制御を用い、画像センサで人の動きを検知し、
適正な「明るさ」、「空気」、「快適な空間」をつくる。

国土強靱化対策

災害時に利用者の安全を確保し、災害応急活動に必要なとなる
建築設備の機能が維持できる建物をつくる。

長寿命化計画

企画、設計、施工のプロセスを通して、50年先、100年先を見据えた建物をつくる。



つくる
作る
造る、創る

快適な空間